

地域生活への移行を支える進路学習の実践†

鈴木 智帆*

秋田大学教育文化学部附属特別支援学校

内海 淳**

秋田大学教育文化学部

本研究は、3年間の進路学習の実践から、進路学習の方法論における成果と課題を明らかにしていく。

進路学習の方法論的成果は、①学習内容の系統性、②「調べる→体験する→振り返る」学習活動の構成、及び③考えるツールとしてのワークシートの活用が提示できる。そして、重度重複障害生徒の進路学習の充実に向けては、生徒の生活を広げ豊かにするという視点での「地域を巻き込んだ進路学習」の実践の蓄積が今後の課題になる。具体的には、①「保護者、地域の施設、関係機関と協同した進路学習の授業づくり」、②「地域生活をイメージした進路体験の充実」が考えられる。

キーワード：進路指導、地域生活、進路学習

1. 問題と目的

1990年代後半から、知的障害養護学校における進路指導は「転換期」を迎え、「新たな進路指導」実践の開拓がすすめられている¹⁾。従来の進路指導は、作業学習や現場実習を重視した実習的活動を中心に据えた「能力開発と適応（作業能力の育成と適応行動の形成）」が強調されてきた。それに対し、「新たな進路指導」は「主体形成と環境整備」の視点からのアプローチが強調されている²⁾。「主体形成」の点からは「進路学習・進路体験（現場実習・職場見学等）・進路相談」といった3領域から構成された実践が、「環境整備」の点からは個別の移行支援計画と関係機関のネットワークによる支援が展開される。つまり、「新たな進路指導」は生徒を進路選択と社会参加の主体に位置づけているのである。

一方、進路学習とは、「生徒が現場実習・職場見

学等の体験的な学習を整理し、自己の進路選択に向けて情報を集め、これからの生き方について考える学習の場³⁾である。この進路選択の過程が、卒業後の地域生活における主体性の形成につながる。つまり、「進路学習」が「新たな進路指導」における特徴的な実践と考えられる。進路学習に関する近江の全国調査でも、進路学習が「進路に対する関心・意欲が高まった」という進路指導上の効果、生徒の変容につながるということが示され⁴⁾、進路学習が「新たな進路指導」において重要な要素となることが示唆されている。

秋田県立養護学校天王みどり学園（以下、「天王みどり学園」とする）高等部では、「進路学習」の時間を特設して3年目になる。これまで、以下の2点を重視した実践をすすめてきた。1点目は、現場実習や職場見学等の生徒の進路体験を引き出し、考え、意味づけしていく「体験の再構成」である²⁾。2点目は、生徒が自分で得た情報を整理したり、選択したりすることができるような「ワークシートの活用」である。このようなワークシートの蓄積は生徒自身が卒業後の地域生活、つまり進路先や生活設計についてイメージしたり、実践したりするツールになると考えられる。そこで、本研究では、天王みど

2008年1月28日受理

†Learning for Career for the Transition to Community Living

*Chiho SUZUKI, Attached school for Mentally Challenged, Faculty of Education and Human Studies, Akita University.

**Jun UTSUMI, Faculty of Education and Human Studies, Akita University.

り学園高等部の「体験の再構成」,「ワークシートの活用」をキーワードにした3年間の進路学習の実践から,進路学習の方法論における成果と課題を明らかにしていく。

2. 本実践について(方法と対象生徒について)

(1) 対象生徒について

本事例は,天王みどり学園高等部生徒15名(同学年)を対象とし,平成16年4月から平成19年3月まで進路学習の実践を蓄積した。コミュニケーションについては,言葉や身振り等で自分の意志を表出することができる生徒が多い。また,実態差はあるが,全ての生徒が平仮名や漢字の読み書きができる。読み取るポイントやキーワードを示すことで必要な情報を獲得したり,自分の考えや気持ちを簡単な文章や単語で表現したりすることができる。

(2) 生徒の変容の分析と評価の方法について

進路学習,進路体験,進路相談における生徒の言動をエピソード記述⁴⁾としてまとめて,評価分析した。また,進路学習については生徒の記入したワークシートの内容や発言の様子を関与観察⁴⁾を行い,同様にエピソードとしてまとめた。進路体験,進路相談については,保護者や関係機関(福祉施設,企業,支援機関等)からの提供していただいた情報も付け加えた。

3. 進路学習の実践

(1) 高等部の進路指導の全体像

天王みどり学園高等部においては,生徒主体の進路実現,豊かな生活をめざした進路指導を行っている。進路指導を「進路学習」,「進路体験(現場実習・職場見学)」,「進路相談」の3つの領域で構成し,各領域を相互・関連的に組織し,展開している。図1にもあるように,「進路学習」,「進路体験」において,進路についての生徒の関心,理解,探索,試行を促すために,「体験を再構成する」活動をポイントに取り組んだ。

(2) 進路学習の位置づけ

天王みどり学園高等部では,平成17年度より「進路学習」の時間を週1時間で特設した。教育課程上の位置づけは1,2年目は生活単元学習,3年目は総合的な学習の時間とした。進路学習が「働く(職

業)」ことだけでなく,「暮らす(生活)」,「楽しむ(余暇)」にかかわり,生徒の地域生活をトータルに捉えた学習内容を扱うため,そのように位置づけることを高等部で共通理解した。また,生徒の進路体験を整理・発展させる「体験の再構成」という観点からもそのような位置づけが適切と考えた。なお,進路学習の位置づけは,「職業」,「総合的な学習の時間」が全国的な傾向として示されている⁵⁾。

(3) 進路学習の内容と計画

高等部3年間の系統的な指導を行うために,3年間の目標と学習内容を表1および2のように整理した。3年間の目標は,高等部3年間の生徒の進路に関する経験,育ちを考慮し,1年生「知る」,2年生「深める」,3年生「決める」とし,生徒と教師が共有できるように分かりやすいキーワード・文脈を設定した。進路学習の内容は,この「知る」,「深める」,「決める」という文脈のもとで,より核となる学習内容を精選し,表2のように進路関係行事と関連をもたせながら,進路学習における学習のあり方(「体験の再構成」)を追究している。

(4) 「体験の再構成」の展開

天王みどり学園高等部の進路指導の全体像でも示したが,学習活動の展開においては,「進路学習」と現場実習や職場見学等の「進路体験」を関連づけ,「体験の再構成」を図ることにした。そのことにより,進路に関する生徒の理解・認識がより確実になると考えた。そこで,進路学習における学習活動を「調べる→体験する→振り返る」というパターンで構成した。この学習活動のパターンが,本実践の特徴でもある。学習活動の展開の例を表3に示す。1,2年生は,「体験する」部分が校内・現場実習になる場合が多かったが,進路学習で扱うことで,生徒の進路に関する関心,認識をより深いものにできたという成果が挙げられる。たとえば,1年生では漠然としていた進路先の種類も様々な実習先を体験し終えた2年生時には,「入所施設,通所施設,一般就労」の種類に区別することができた。自分の経験もより深まり,どのような就労形態があるのか,また,どのような生活があるのかを実習の経験を振り返りながら理解する様子が見られた。3年生は校外学習も「体験する」に含まれてくる。卒業後の生活のイメージを高めるために,「働く」,「暮らす」,

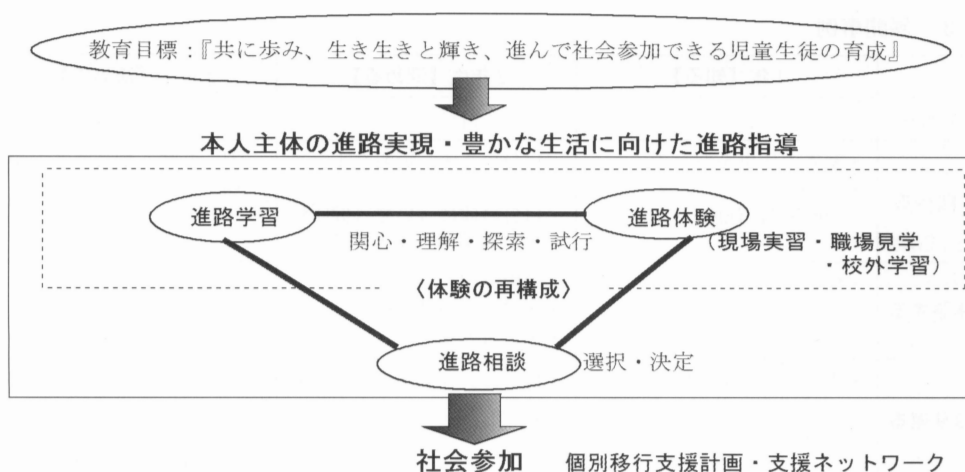


図1：本校進路指導の全体像

表1 進路学習の目標

進路学習の目標		自分の進路や生活について、積極的に考え、選択・決定する。
各 学 年 の 目 標	1年生の目標【知る】	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身を知り、卒業後の生活に対する希望や課題を明らかにする。 ・身近な人々の仕事に関心をもち調べる。
	2年生の目標【深める】	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解を深め、他者やいろいろな環境の中で生活する力を高める。 ・いろいろな仕事について知り、将来の生活を意識して考える。 ・卒業後の生活に必要な基礎的な知識や態度を学ぶ。
	3年生の目標【決める】	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な進路を自ら選択し、考える。 ・卒業後の生活をイメージし、自ら考え、設計する。

表2 進路学習の内容

	1年【知る】	2年【深める】	3年【決める】	進路関係行事
1学期	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生の「進路」について [ガイダンス] ・私の生活 ・家族の仕事 ・「はたらく」ことⅠ 	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生の「進路」について [ガイダンス] ・進路先の情報Ⅰ ・私の実習計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生の「進路」について [ガイダンス] ・私の進路希望Ⅰ 	4月：進路相談 6月：校内実習（1年） 現場実習（2・3年） 夏季休業中 ：希望実習（2・3年） 青年学級（3年）
2学期	<ul style="list-style-type: none"> ・「はたらく」ことⅡ ・職場見学 ・実習を終えて 	<ul style="list-style-type: none"> ・私の進路希望（進路先の情報Ⅱ） ・職場見学 ・職場でのマナー ・自分のことⅠ 	<ul style="list-style-type: none"> ・私の進路希望Ⅱ ・いろいろな相談と支援Ⅰ 	9月：求職登録（3年） 現場実習（3年） 11月～12月 ：校内・現場実習（1・2年） 職業講話（1年） 職業ガイダンス（2年） 冬季休業中 ：希望実習（2・3年） 11月：青年学級（3年）
3学期	<ul style="list-style-type: none"> ・実習先の情報 ・私の進路希望 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことⅡ 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな相談と支援Ⅱ ・私の生活設計 	3月：同窓会入会式（3年） 3月：青年学級（3年）

表3 展開事例

	1年【知る】	2年生【深める】	3年生【決める】
単元名	「働く」こと	自分のこと	いろいろな相談と支援
調べる	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の仕事調べる。 ・実習先について調べる。 (施設名、住所) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所、短所をまとめる。 ・自分の体について(健康状態、服薬等)まとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・困った時「相談する」場所を調べる。
体験する	<ul style="list-style-type: none"> ・校内実習 ・現場実習 (小グループ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・現場実習 ・保健室への健康相談 ・ディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・現場実習 ・校外学習 ・ディスカッション
振り返る	<ul style="list-style-type: none"> ・実習先カードを作成する。 (施設名、住所、作業種、日程など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のプロフィールを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の概要をまとめ、ガイドブックを作成する。 ・困った時のメモを作成し、ファイリングする。

「楽しむ」の生活全体の様子が含まれてくるため、地域資源を活用した余暇の充実、相談機関に関する情報も必要になってくるからである。この学習活動のサイクルは生徒にも定着し、職場見学や実習前の学習になると、「行く前に調べようよ」と話したり、本校の進路に関する情報コーナーとして設置されている「進路コーナー」に行き、施設のパフレットを開く様子が見られた。



写真1

(5) ワークシートの活用

進路学習の授業では、毎回ワークシートを作成し、中心的な教材として活用した。本事例においては、「生徒が調べたり、振り返ったりする際に活用できる」、「生徒が進路に関するキーワードを獲得できる」ことをねらいワークシートを作成した。また、ワークシートの蓄積が卒業後の生活に活用できるガイドブックの機能を果たすことができるように、ファイリングの仕方も工夫した。生徒の実態に応じて、記入欄の大きさ、文字の大きさ等も使い分けた。

①ポートフォリオの利点の活用

授業で活用したワークシートの蓄積が卒業後の生活を支えるガイドブックになるように、保存の仕方を工夫した。穴あきのファイルではなく、写真1のように差し込み式のクリアファイルに保存し、ワークシートや関係する資料やパンフレットを生徒が簡単に、整理できるようにした。このような蓄積の仕方はポートフォリオ(「つくられた過程も含めて学習したものを明確な目的のもとに集めたもの」⁶⁾)の役割を活用したものである。このファイリングの仕

方により、生徒自身が蓄えた進路の情報や知識を振り返りや実際の場面に活用するのに効果的であった。前時までのワークシートを探索しやすいという形式が生徒の「進路学習での学び」を分散せずに、活用させることにつながったと考えられる。

②ワークシートの内容と記入量

進路学習では、社会参加に関する社会的用語を扱うことが多い。そのため、授業では、進路に関する「キーワード」を吟味して適切に生徒たちに伝えることが必要である。資料2, 3, 4はワークシートの一例である。ワークシートにはイラストや実際の施設の写真などを積極的に取り入れた。また、ワークシートにはできるだけ文章での記入ではなく、単語を記入することで文章が完成する「穴埋め式」を積極的に取り入れた。「進路先を決める」、「相談する」といった重要なキーワードを取り上げ、毎時間確認できるようにした。併せて、「調べる→体験する→振り返る」のサイクルがこのキーワードの理解をより深いものにできたのではないかと考えられる。ワークシートの構成の仕方も、自分の考えをまとめるヒ

ントになる設問を設定したり、仲間の考えを整理できるように形式を工夫したりした。

4. 授業の実際

(1) 1年生の進路学習 ～「はたらく」こと～

①単元設定の理由

1年生は進路関心を培う段階であるので、「知る」ということを目標に取組をすすめた。「家族の仕事」についての学習を進める中で、生徒が、友達と発表し合い、仕事を分類する中で、「仕事」のイメージを膨らませることができた。『「はたらく」こと』の学習を通して、1学期の校内実習、2学期の小グループでの福祉施設での現場実習の「体験の再構成」を図ることで、その後の2・3年の進路探索・試行・決定につなげたいと考えた。

『「はたらく」ことⅠ』は1学期の校内実習について、『「はたらく」ことⅡ』は2学期の小グループでの現場実習の体験をもとに以下のねらいで授業をすすめた。

- ・家族の仕事と校内実習での体験をすりあわせて、働くことや働く意義について考えることができる。
- ・現場実習先をふりかえることで、学校と実習先での生活の違いや、地域の福祉施設の様子を知ることができる。

②授業の実際

i) 「はたらく」ことⅠ

自分たちが初めて働く体験であった「校内実習」後に実習報告書を作成した(写真2)。この実習報告書は、高等部全学年の生徒が記入し、実習報告会の資料として編集している。報告書の内容には、自分の体験した作業内容、良くできた点、今後の課題に加え、「自分で働いた感想」という項目を設定した。このことにより、実習前に生徒が調べた家族の



仕事と自分の体験をすりあわせ、より「はたらく」ということを現実的に捉えることができるのではないかと考えた。「自分で働いた感想」には、「働くことは大変だと思った」、「お父さんの仕事と同じだと思った」といったコメントが記入され、「働く」ことに触れた生徒の率直な気持ちを表現する機会となった。また、報告書への関心も高まり、報告会で上級生の発表を聞く際に見たり、進路学習の際に情報を検索したりする様子が見られた。

ii) 「はたらく」ことⅡ

高等部では、1年生時に3日間の福祉施設での実習を行っている。実習先は生徒が居住する地域の福祉施設とし、2～4名で教師引率という形で行っている。この実習後は、先にあげた「実習報告書」に加え、「実習先カード」を記入した。「実習先カード」の内容は、自分が体験した福祉施設の場所、連絡先、作業内容、1日の日程である。生徒たちは、自分で実際に足を運び、生活した実習先の情報をこのカードにまとめることで、生徒自身が進路情報として蓄積することができたようである。生徒が記入した「実習先カード」は校内の「進路コーナー」に掲示した。実習前になると生徒たちが「分からないから調べに行ってくる」と言ったり、休み時間に友達同士で実習先カードを見ながら話し合ったりするなど、進路コーナーの活用や情報収集の方法が身に付いた。

(2) 2年生の進路学習 ～自分のこと～

①単元設定の理由

2年生は進路を探索・試行する段階である。実習の体験を重ね、探索・試行する中で生徒自身が「自分に合った進路先はどういうものなのか」を考える力を高めるために、自己理解を深めることは重要である。そこで、実習での体験や保健室、保護者への聞き取りといった活動を中心に据え、「自分のこと」という単元を設定した。ねらいは以下である。


- ・自分の体や健康状態について調べ、整理することができる。
- ・実習や日々の生活の様子を振り返ったり、友達と話し合ったりしながら、自分の得意なこと苦手なことを整理することができる。

②授業の実際


授業では、「整理する」ということに焦点を当て、

ワークシートの形式や視覚的なヒントとなるイラストやマークを工夫した。写真のように、「得意である」、「一人でできる」といったことと「苦手である」、「支援が必要である」といったことを区別して理解できるように一貫したマークを利用した。このマークを利用することで、自分から「苦手だ」、「困っている」や「実習の時はうまくできた」とスムーズに自分の考えを表現する生徒が多かった。その後、さらに自分の経験を引き出したり、考えたり、意味づけすることへ展開がスムーズであった。主体的な進路選択という観点から、「自己理解」は重要な要素である。本実践例では、『『自分のこと』について整理する』という観点から、生徒の自己理解にせまった。取り上げる内容も、生徒にとって分かりやすい「体・健康」からスタートし、「生活について」、そして自分に合った進路先を考える「進路希望」と段階的に「自己理解」に迫っていくことができるように学習の展開を工夫し、ワークシートを作成した。

資料1



「得意である」
「一人でできる」



「苦手である」
「支援が必要である」

資料2
進路学習ワークシートN0.3

月 日

名前 _____

私の進路希望②

★3年生の目標は…

先を ☐ ☐ ☐

★6月の実習をふりかえろう。

☺：自分に合っていた、また行きたい
☹：自分に合っていない、行きたくない

実習先の名前	種類	実習先	実習先	実習先	実習先	実習先	実習先
通学	☺	☹					
仕事のやり方	☺	☹					
仕事の役割	☺	☹					
朝の会・休けい	☺	☹					
働く時間など	☺	☹					

資料2のワークシートを記入する際には、「この仕事が好きだから、〇〇に行きたい」、「乗り換えが苦手だから、家の近くで働きたい」など自分と進路先を照らし合わせる発言が聞かれるようになった。

(3) 3年生の進路学習

～いろいろな相談と支援～

①単元設定の理由

3年生は、進路を選択・試行・決定する段階である。卒業後の自立的な生活においては「相談」が重要なキーワードとなる。3年生の進路学習では、「いろいろな相談と支援」という単元を設定し、相談しながら問題解決していくための情報や姿勢を身に付けることができるのではないかと考えた。単元のねらいは以下のように設定した。

- ・困った時の対応について友達や教師と話し合い、相談の必要性や意味について考えることができる。
- ・卒業後に支援してくれる機関や支援内容を調べ、整理することができる。

②授業の実践

「相談する」というキーワードを理解するために、普段の学校生活を話し合いのテーマとして設定した。自分のこれまでの経験を振り返ることで、「相談」することを身近に感じてほしいと考えた。その際、利用したワークシートが資料3、4である。この話し合いを通して、生徒から「困ったときは相談する」という発言が聞かれた。「一人で困っているよりも話した方が楽になるよね」と友達同士で同意する様子も見られた。

本単元では、校外学習の機会も設定した。障害者就業・生活支援センターへの見学を行った。事前にセンターの役割、場所をグループごとに調べた。センターの役割を調べる際には「相談にのってくれる所だね」という発言が聞かれた。実際にワーカーと話をする経験も生徒にとって貴重な機会となった。

その他に、市役所・役場についても調べる活動も設定した。ワークシートを利用する際活用できるように編集することで「市役所メモ」を作成した。自分の居住する地域の市役所や役場を「〇〇市に住んでいるから〇〇市役所だよ」と自分で選んだり、友達同士で教え合う様子が見られた。

卒業生の生活の様子からも、豊かな地域生活を送

資料3

進路学習ワークシートNO.6

月 日


名前 _____

いろいろな相談と支援①




★3年生の目標は…

<input type="text"/>	を	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(いつ?)	の生活を考える。			

★今日のテーマは…?

	思った	・	うれしい	ときどうする?
---	-----	---	------	---------

★ごはん時、みんなはどうしているかな?

	だれに?	～ずき、～してろう
①の食卓、顔がわるい。 食卓、体のことでなや んでいる		
②スクールバスで 乗客がわなくなった。 トイレに 行きたい		
③友だちとケンカした。 思った、い ったことがあ った		

るうえで、「相談する」ことの重要性を感じている。関係機関からも「すぐにだれかに話すことができる」、「『どうしたらいい?』と外にはたつきかけることができる」ようになるため、「相談する」ことに触れておいてほしいという助言をいただいた。本単元後、生徒から、「家にハローワークから就職面接会の案内が届いたんだけど。どうすればいいか先生に聞きたい。」と冬期休業中に担任に自分から電話をするといった様子が見られ、「相談する」力の芽生えが感じられた。

5. まとめ ～成果と課題～

(1) 進路学習における方法論的見通し(成果)

天王みどり学園高等部での3年間の取組により、以下の3点が進路学習における成果としてあげられる。なお、本校の進路学習の特徴は、核となる学習内容を「知る」、「深める」、「決める」という文脈のもとで精選し、学習のあり方(「体験の再構成」)を追究した点にある。

①学習内容の系統性

この3年間の実践は高等部における進路学習の系統性を探る機会となった。表1にあるように、進路学習の目標を「知る」、「深める」、「決める」と職員間で共通理解できたのは大きな成果である。各学年の目標を分かりやすいキーワードで設定することで、担当職員が生徒に合った学習内容、方法を探索することができた。また、学習内容の精選にもつながった。近江の調査でも「3年間の系統性」が進路学習の評価を左右する重要な要素になることが示されている⁵⁾。

②「調べる→体験する→振り返る」学習活動の構成

進路学習では、「体験の再構成」をポイントに「調べる→体験する→振り返る」というパターンで学習活動を構成した。進路におけるキーワードを「調べる」ことで触れ、「体験する」ことで自分の体験として蓄積し、「振り返る」ことで確認し、深めていく。このことにより、生徒の理解や認識を培い、進路選択における主体性、さらに地域生活における主体性(見通し)を育てることにつながる事が期待される。

資料4

進路学習ワークシートNO.7

月 日


名前 _____

いろいろな相談と支援②


★3年生の目標は…

<input type="text"/>	を	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(いつ?)	の生活を考える。			


★今日のテーマは…?

	思った	・	うれしい	ときどうする?
---	-----	---	------	---------

★グループで話し合ってみよう。(〇をつけよう。)

	思ったときは	・だれかに話し、助けてもらう。
		・一人で悩む。

★だいじなことは…

	思ったときは	<input type="text"/>
		↓
		<input type="text"/> する。

③考えるツールとしてのワークシート

本実践の中でワークシートは「体験の再構成」、つまり「調べる→体験する→振り返る」学習活動のサイクルを媒介するものとして活用した。「記入する内容と記入量」、「ファイリングの仕方」がワークシート作成におけるポイントとなる。「記入する内容と記入量」については、生徒が選んだり、考えたりすることをねらい記入する観点をしぼる必要がある。生徒と教師が進路における「キーワード」を共有するという点からも「記入する内容と量」は重要なポイントといえる。「ファイリングの仕方」については、「ポートフォリオ」の利点を活用した。自分の学習の成果が振り返りやすいという形式を取り入れることで、生徒の学びも分散することがなく、学習にもストーリー性をもたせることができた。このことが、生徒自身がワークシートを進路先や地域生活について「考える」ツールとして活用する様子につながったと考えられる。

(2) 課題～重度・重複障害の生徒の進路学習の充実に向けて～

進路学習において「重度・重複障害の生徒への指導」を課題としてあげる学校は多い。今後は、生徒の生活を広げ、豊かにするという視点で、「地域を巻き込んだ進路学習」の充実に取り組んでいく必要がある。

そのために以下の2点が考えられる。まず1点目として、「保護者、地域の施設、関係機関と協同した進路学習の授業づくり」である。具体的には、保護者と一緒に取り組む生活マップづくり、進路先の職員の方をゲストティーチャーとして招くなどのことが考えられる。

2点目として、「地域生活をイメージした進路体験の充実」である。生徒たちは、「体験する」ことを繰り返し、経験を蓄積する中で、将来の生活に共通性をもつことができる。つまり、生徒のニーズにあった形で情報提供をするという意味でも、「体験する」ことは重要なことである。生徒の地域生活に密着した校外学習、例えば美容院の利用、地域の公共施設の利用といった生徒の地域生活をイメージした校外学習、現場実習の形態や内容の工夫が考えられる。

(※本稿は、筆者が秋田県立養護学校天王みどり学園所属時の実践をまとめたものである。)

〈参考・引用文献〉

- 1) 内海 淳 (2004)「新たな進路指導・『移行支援』への転換」(松矢勝宏監修「主体性を支える個別の移行支援計画」) 大揚社
- 2) 内海 淳 (2004)「生涯学習基盤としての進路学習」(松矢勝宏監修「大学で学ぶ知的障害者大学公開講座の試み」) 大揚社
- 3) 原 智彦・緒方直彦 (2004)「主体的な進路選択ー進路学習の実践」(松矢勝宏監修「主体性を支える個別の移行支援計画」) 大揚社
- 4) 鯨岡 峻 (2005)「エピソード記述入門 実践と質的研究のために」 東京大学出版会
- 5) 近江龍静 (2007)「進路学習の実践的な特質」(日本キャリア教育学校第29回大会発表論文集)
- 6) 吉田新一郎 (2007)「学ぶ技術」インデックスコミュニケーション

Summary

The research herein sheds light to the achievements and issues in methodology for implementing learning for career, based on actual practice over a span of three years.

In terms of achievements in methodology, results could be found in the use of worksheets as the tool in (1) maintaining consistency and continuity in study content and (2) organizing the "gathering information -> experience -> relearning" study cycle, as well as (3) as tool for thinking. Furthermore, the issues in learning for career for students with serious disabilities are believed to be (1) "learning for career curriculum planning involving the local community" and (2) "improvement in learning for career experience with community living in mind," founded on the perspective of expanding and enriching the scope of living for the students.

Key Words : Career guidance Community living Learning for career

(Received January 28, 2008)